

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 148号

## 私たちの中に宿る神

出エジプト29：38～46

安藤 脩



主イエス・キリストの復活は私たちの信仰の保証であります。そしてその主は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28：20)と言われました。神は私たちを交わる存在として創造されました。神と人と共にいる。これが神の創造の自然の姿であります。

しかし、聖なる神は罪ある者と共にいることはできません。アダムとエバが神の言葉を信頼しきれず、サタンに誘惑されたとき、神はアダムとエバをエデンの園より追放しました。いえ、その前に、知恵を得た人間の方が、神と共に居ることを、煩わしいことと考えたのです。その時以来、神なんて必要ない、人間は自分たちの力でこの世を平和な世界にできるし、幸福になれると、人間万能の考えになってしまいました。

それでも、神の霊を吹き入れられ、永遠を思う思いを与えられた人間は、神の存在を否定できません。それ故、自分の願いを聞いてくれる神、自分に必要な時のみ共に居てくれる神として、偶像を作り出しているのです。今日の聖書の箇所は、たいして重要と考えず読み過ごしてしまい易い箇所です。しかし、このために聖書は書かれ、神は労苦してくださっていると云えます。「わたしはイスラエルの人々のただ中に宿り、彼らの神となる。」(出エジ29：45) 罪のゆえに滅びの道を進んでいた人間を救わんがために、神はアブラハムを導き出しました。アブラハムの旅立ちにも、神が共にいるとの約束が伴います。いえ、これこそが旅立ちの目的だったのです。「わたしは、あなたとの間に、また後に続く子孫との間に契約を立て、それを永遠の契約とする。そして、あなたとあなたの子孫の神となる。」(創世記17：7) 更に、救いの完成が記されているヨハネ黙示録にも「そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。『見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となる』」(21：3) イスラエル人のエジプト脱出も、主に祭りを献げるためでした。(出エジ5：1,6：7) 出エジプト記の25章から29章は幕屋・神殿の建設指示です。そして本日の箇所がその結びであります。神殿を造っても神がそこにお住みになるわけではありません。しかしそこは象徴的な臨在の場所であります(列王上8：27～29)。神は私たちの中に住まわれるのです。「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか」(Iコリント3：16)。私たちは主が共にいるとき、人知では計り知れない平安と喜びを得ます。そこにこそ神の国の交わりがあります。神はご自身の創造の完成のために私たちに聖霊をお贈りくださいました。「この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内にいるからである。」(ヨハネ14：17) 主を褒め称えよ!

(日本キリスト教団横浜岡村教会牧師)

## 霊 想

「アツバ父よ」

と叫ぶ御子の霊

ガラテヤ四・六

愛泉祈禱院

日高 範嘉



忘れもしない二〇〇一年四月十三日の午後、台湾（高雄）岡山信義教会の五樓で、祈るともなく聖書を読んでいた私の心に、突然の如く語りかけて来た御言があった。それはマタイ三章。主イエスの受洗の時、天が開け、聖霊が鳩のように降って「あなたはわたしの愛する子、私の心に適う者である」と主イエスに語りかけられたみ言。しかし、実はそれはそのまま五十数年前の受洗の日、私にも全く同じように語りかけられ、聴かされたみ言であったという深い自覚と感動であった。即ち、イエスに語りかけられた天からのみ言は、イエスだけでなく、そのまま私への、又、私たちへの語りかけであるということを知られたのである。

の内なる魂に語りかけ、イエス・キリストへの信頼と熱き思いを深めさせ、私の魂に大きな変化をもたらした。そしてこの第二の回心とも言うべき経験は、今まで長い間求めて来つつもハッキリしなかった様々な問題への解決と新しい祈りの方向づけとなつて展開していった。特に祈りの世界について大きく開眼、確信があたえられるようになった。

若い日から容易に分かり得なかった祈りのみ言。例えばローマ八・二六―二八。然り、祈りが如何に徹頭徹尾、聖霊御自身のみ業であるかを教えられる。実際、私たちは少しの困難な問題にさえどう祈つてよいか分からない弱い者、又自己中心の御心に沿わない多くの祈りをしている愚かな者である。しかしここではっきり告げられていることは、本来、祈りとは、私たちによつてなされるものではなく、あのバプテスマの日、即ち、イエス・キリストによる罪の贖いと復活の命に生かされた日以来、神の子とされた私たちの魂の内にある霊自らが絶えず、父なる神の御心に従つて、聖なる者たちのために、言葉にも表せない呻きをもつて執り成し続けていて下さる事実である。然り！祈りは本来、私たちによつてなされるものではなく、私たちの内に住んでおられる聖霊によつてなされるものであるということである。

ある。そして祈りとは、愛する神の子として生まれた私たちへの父なる神のプレゼントである。だから私たちはこのプレゼントである祈りの賜物を心から感謝して父なる神に祈るべきなのである。

更に、ローマ八・十五―十六。あの日、私たちは「アツバ父よ」と叫ぶみ言の霊を受けたのである（ガラテヤ四・六）。私たちが受けたのは「アツバ父よ！」と叫ぶことが出来る「神の子の霊！」であつて主イエスが父なる神に、丁度、幼子が深い信頼と愛、親しさをもつて「アツバ、アツバ」と呼びかけられたように、私たちも又イエスの如く祈ることを求めておられるではないか。そのような祈りこそ真に深くみ心を知りうるものとなるであろう。神の子主イエスが喜びにつけ、悲しみにつけ叫び続けた「アツバ父よ」の祈りは、あのゲツセマネの園でのみだえ苦しみのお祈りにおいても「アツバ父よ」であつたことを思えば（マルコ十・三六）主イエスがどんなに深く信頼し、愛し、親しく父なる神に祈られたかは、想像に余りある。私たちも無限に神に愛された神の子であるから、そのように祈る神の子でありたい。

十数年前、初めて私はアシラムに出会つて、アシラムこそ本当に素晴らしいキリスト者の道であると

の思いを深くし、以来、一層励んでいるものである。毎朝に、一日一章のみ言の聴従、そしてみ言の分かち合いと祈りの分かち合い。しかし、私はアシラムの土台が祈りにあることを思わされてならない。更に深くみ言の聴従の道が出来るようになるためにも、一層の祈りの必要があると思つてここに祈りについて記したしだいである。

※アツバとはアラマイク語（イエス当時のヘブライ語）で、幼児語であり、日本語に翻訳すれば現代の子供たちが使うパパとでもすべき語。旧約聖書も含めユダヤの全文献を調べても、敬語として「お父様」（父上）という祈りの呼びかけはあつても、神にパパと呼びかける例は皆無と言われる。

言う迄もなく、それは単なる呼称の問題ではなく、この事実が「新しい契約」による父なる神と人間の質的関係の転換の結果、私たちの祈りも又父なる神をアツバ父！と叫ぶうる迄に変えられていくことこそが重要なのである。



### 証 立 関東アシラムの恵み 池の上教会 田口 誠弘

私は初日の夜、連鎖祈祷の中で、集中して神様との対話に臨みました。そこで「お前の信仰は薄い」と宣告され、ショックを受けました。関東アシラムのスタートはショッキングな幕開けとなりました。

初日、開会礼拝、関心の時、感謝の時、祈りの細胞一、と続き、プログラムは進んで夜の「沈黙の時」を迎えました。これは初体験でしたが、夜を徹して参加者が順番で神に祈り、対話する時間です。私も祈祷室の壁に向かって十時から十二時半まで連鎖祈祷を続けました。

私のニードは「完全な明け渡し」と「健康の維持向上」でした。ここ数年間、病気でもないのに体調が悪く健康に自信がもてない状態が続いていますので、「健康に自信が持てるようにしてください」と祈りました。「なぜ癒されないのですか」という気持ちをつぶやいたら、突然「お前の信仰は薄い。明け渡しができてないからだ」という神様の声が聞こえました。私は少しむっとして、むきになつて「なぜそれが言えるのですか」と反論しました。「お前が口先で神に栄光を帰すると言っているのは知っ

ている。いろいろ活発に活動しているようだが、何ごとも自分の努力でやれていると考えている」という答えが返ってきました。つまり、自分を明け渡していないから、信仰が薄いという指摘です。私はあまりに単刀直入に己の罪を指摘されて、少しあわててしまいました。「じゃ、どうすればいいですか」と愚図りました。「それに対する答えは「聖書を読め」でした。アシラムのテーマはマタイ伝でしたので、マタイの福音書を第一章から丁寧に読みました。「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません」(マタイ六・一)。「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」(マタイ六・二)。「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません」(マタイ六・二四)、という聖句が眼に留まりました。「これからどうすればいいんですか」と私は主に尋ねました。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」(マタイ六・三三)。「求めなさい。そうすれば与えられます」(マタイ七・七)のみ言葉が次々と与えられました。

気がつくとき時計はすでに十二時三十分を回っていました。私は「お前の信仰は薄い」という言葉をそのまま受け入れて、壁に向かって祈りました。「天のお父様、今日までの成長はすべてあなたがくださった賜物によるものです。忍耐強く私を受け入れ、訓練してください感謝します。」

同じグループでとりなしの祈りをささげてくれた仲間にも感謝の祈りをささげました。二日目、三日目、共に主の祝福と恵みは私を包み込み、ニードの解決のために私が進むべき方向となすべきことを示してくださいました。そして、関東アシラムは感謝と恵みのうちに最終日を迎えました。

### 第十四回東京新生教会

### アシラム報告

横山 義孝



二〇〇七年二月十七日(土)午後七時より十八日(日)午後三時まで、第十四回東京新生アシラムが開催されました。ゲスト立証者として、教団西川口教会より川田愉兄を迎えました。テーマは「イエスは主である」(エペソ二章三節)。

十七日(土)午後七時「関心の時」(二十名)ヨハネ黙示録三章十四、二十二節によって「わたしの声を聞いて戸を開けるなら」のメッセージが語られ、続いて八時より九時迄、三つのグループに分かれて関心の時が継続されました。座長の指示に従って一人一人、心の深みからのニードを語り、右隣の人が、そのために祈りました。十時から翌朝七時迄は連鎖祈祷の時、予め分担当表により一時間宛責任も持ち、教会或いは自宅において、指定されている聖書の箇所(福音書・書翰・詩編等)を十五分読み、十五分祈る、を繰り返す型で神との対座の時を持ちました。十八日(日)午前九時四十五分より十時十分迄静聴の時、パウロ書翰と詩編から定められたテキストについて黙想し、昨夜からの連鎖の時の恵みも加えて、分かち合いの時を持ちました。十時三十分より十二時迄同礼拝、西川口教会員川田愉兄が「エジプトのカイロで与えられた恵みの経験」から、ゆだねることの幸いが語られました。続いて横山牧師によ

る「心の底から新たに」(エフエソ四の七一―二四)のメッセージ。アシュラムとは、祈りとみ言葉に導かれて、魂の王座を主に明け渡すことであると語られました(二十八名参加)。

礼拝後、昼食、愛餐の時、会費三〇〇円でお弁当が用意され、ゲストの川田兄を囲み、全員が一言づつ、アシュラムの恵みを分かちあう楽しい時となりました。午後一時から二時は、第二回のグループの祈りの時、人数が増えたので四分団に分かれて実施。この時点で記念撮影。二時―三時が「充滿の時」昨夜から一同は友との祈り、神ご自身との静かな悟りと交わり、罪の悔改め、重荷の分かち合いで魂は潔められ、平安と喜びに満たされ、感謝しつつ散会しました。

### 第十回 池の上アシュラム報告

島津 吉成

毎年五月に、池の上教会単独で行っておりアシュラムの集いですが、今年で十回目を迎えました。今回は、五月二〇日(日)に助言者として有馬歳弘先生(日本基督教団青梅教会牧師)をお迎えして、「豊かな実を結ぶために」というテーマを掲げて行いました。五三名の参加者



まず、礼拝で有馬先生より「この一つを欠くとき」(ルカ十八章―十節)と題してメッセージをいただきました。富も賜物も、その他すべてのものを自分で握り締めているのではなく、それらを手放し、そして、新たにそれらを主からゆだねられたものとして受け止め、そして、主の御心に従って仕えていくとき、そこに、よき実が結ばれていくと示してください、アシュラムへのよき備えのときとなりました。

午後一時から、「オリエンテーション・関心の時」、そして「静聴の時」。マタイ七章から静聴し、それぞれいただいたみ言葉を分かち合いました。その後、八つのグループに分かれて、「祈りの細胞」の時を持

ちました。今年は青年たちも参加してくれて、青年たちで一つのグループを作ることができました。

続く「福音の時」では、有馬先生が「朝ごとに」と題して、豊かな実を結ぶためには幹が大切。主イエスは幹として、私たちを支えていてくださる。主がよみがえられた日の朝、婦人たちは墓に向かつて歩んでいた。しかし、墓には主はいらっしゃらなかった。「ここにはおられません」という御使いの声を聞いて、墓に向かつていた彼女たちの歩みが、ひっくり返された。これが、復活の朝に起きた出来事。キリスト者の歩みは、まさに、この「朝に生きる」歩みであると語られ、このよみがえられた主が、幹として、いつも共にいてくださるのだから大丈夫なのだ、と励まされたことでした。

最後に、「充滿の時」を持ち、それぞれがいただいた恵みを分かち合い、「聖霊を受けなさい」とのみ言葉をいただき、輪になって主を賛美し、「イエスは主である」との信仰の告白を高らかに共にして終わりました。

アシュラムは、信仰の基本を身につけ、また、一人一人がキリストの弟子として造られていく幸いな時です。今年も、このようなアシュラムを行うことができ、心より感謝いたしました。

### 地区アシュラム予告

#### ▼第45回関東アシュラム

とき 9月17日(月)〜19日(水)  
ところ 山崎製パン箱根山荘  
助言者 島 隆三師

#### ▼第41回関西アシュラム

とき 9月23日(日)〜24日(月)  
ところ 「母の家」(神戸市東灘区)  
助言者 後宮 俊夫師  
費用 八千円  
電話 078-851-4679

#### ▼第26回横浜岡村アシュラム

とき 7月7日(土)〜8日(日)  
助言者 斎藤 脩師  
立証者 川村 秀夫兄(日本キ教団新宿西教会員)

#### ▼第42回九州アシュラム

とき 9月16日(日)〜17日(月)  
ところ 福岡黙想の家

各地区アシュラムの上に祝福を祈りつつ(Y)

〒一八一〇〇三鷹市井口

3-15-8

池の上キリスト教会内

日本クリスチャン・アシュラム連盟

振替口座 東京〇〇一〇〇一―四五五八

理事長 大石嗣郎